

ポルトガル月報

2018年8月

(本月報は報道などの公開情報を大使館で取りまとめたものです)

在ポルトガル日本国大使館

【主要ニュース】

【内政】★大規模山林火災の発生、政府が対応に尽力／★サンタナ・ロペス元首相が社会民主党 (PSD) から離脱

【外交】★アゼレード・ロペス国防大臣がカーボヴェルデ訪問

【経済】★第2四半期失業率、6.7%に低下／★第2四半期GDP成長率、前年同期比2.3%増

内政

●レベロ・デ・ソウザ大統領が民泊開発、及び地方分権化等にかかる法律に署名

8月2日、レベロ・デ・ソウザ大統領は、民泊開発認可制度を変更する法律、及び地方分権化にかかる基本的枠組み法等を含む10本の法律に署名した。

民泊開発認可制度を変更する法律は、地方自治体が民泊に対する抑制区域を指定すること等を可能とし、これに対し、レベロ・デ・ソウザ大統領は、「地方自治体がこの問題と向き合い、特に過度な民泊開発による歴史的区域、又は都心のライフスタイルへの深刻な影響を迅速に防ぐことを目的としている」とコメントした。

また、地方分権化にかかる基本的枠組み法について、同大統領は、「政府の権限を地方自治体に引継ぐ際の財政上の持続可能性、国の責任の放棄として見られるリスク、自治体間の格差悪化への懸念」等の重要なポイントに触れていないとし、今後の追加措置を注意深く評価する必要があると述べた。

★大規模山林火災の発生、政府が対応に尽力

8月2～6日、40度を超える記録的な高温、乾燥に見舞われたポルトガルでは、南部ファーロ県モンシック市を中心に大規模山林火災が発生した。7日からは、気温は下がったものの、強風の影響で火災が再び広がり、消火活動は9日まで1週間かかり、約2万7千ヘクタールの土地が焼け、50棟の住宅家屋が焼失、

41名の負傷者（このうち22名が消防員）、及び約500名の避難者が出た。また、消防士1337人、ヘリ13機、消防車396台が消火活動に当たった。

8日、夏季休暇を切り上げてリスボンに戻ったコスタ首相は、火災情報を統括する国家市民保護局 (ANPC) 内で記者会見を開き、ここ数日間の消火活動の成功は証明されているかとしつつ、モンシックでの火災はその例外である旨述べた。これに対し、ジュスティノー社会民主党 (PSD) 副党首は「気象条件の責任であるとの首相の発言は残念であった」とし、「PSDは適切な時期に (モンシックでの火災について) 説明を要求する」と述べた。

消火活動終了後の10日、コスタ首相、カブリタ内務省、シザ・ヴィエイラ首相補佐相、及び農業、住宅担当副大臣がモンシックを訪問し、同自治州政府と今後の対応について会談した。11日、レベロ・デ・ソウザ大統領もモンシックを訪問した。

【写真上】の国家市民保護局 (ANPC) の会議に出席したコスタ首相 (中央) (ポルトガル政府プレスリリースより転載)

【写真右】モンシック自治州政府と会談するコスタ首相 (中央) (ポルト



ガル政府プレスリリースより転載)

★サンタナ・ロペス元首相が社会民主党 (PSD) から離脱

8月4日、サンタナ・ロペス元首相は社会民主党 (PSD) メンバー宛の書簡を通じ、40年間所属したPSDから正式に離脱したと発表した。これに対し、レベロ・デ・ソウザ大統領は、「自分にとって党は家族であり、家族は変えないものである」との考えを述べ、また、PSD内での党の指導権をめぐる争いに関し、「自分が心配していることは、野党が分断されすぎて、権力を取って代わるような存在でなくなることで」と懸念を示した。

サンタナ・ロペス元首相の新党名は「アリアンサ (同盟)」で、8月20日からウェブサイト上で党の正式な設立のために必要な署名活動をはじめた。

外交

●ヴィエイラ・ダ・シルヴァ労働・連帯・社会保障相がサントメ・プリンシペ訪問

8月3～4日、ヴィエイラ・ダ・シルヴァ労働・連帯・社会保障相は、サントメ・プリンシペを訪問し、リマ・サントメ・プリンシペ雇用・社会問題相と両国間の社会及び雇用分野に関する協力を合意したほか、ポルトガル政府の支援を受けている老人ホーム、児童養護施設、託児所、及び障害者向けの施設等を訪問した。両省間の協力は1998年にはじまり、貧困との闘い、行政機関のキャパシティビルディング、及び雇用と職業訓練の分野に焦点を当てている。

【写真】ヴィエイラ・ダ・シルヴァ労働・連帯・社会保障相 (左) (ポルトガル政府プレスリリースより転載)



★アゼレード・ロペス国防大臣がカーボヴェルデ訪問

8月6～7日、アゼレード・ロペス国防大臣は、カーボヴェルデを訪問した。6日、同大臣は、タヴァレス・カーボヴェルデ国防大臣、及びシュナイダー・ル

クセンブルク国防大臣との間で、カーボヴェルデの安全保障と防衛能力の強化を目的とする三カ国間協力の共同声明に署名した。アゼレード・ロペス国防大臣は、この三カ国間協力について、特にギニア湾の安全に関するカーボヴェルデの地政学的及び戦略的重要性を強調した。

【写真】アゼレード・ロペス国防大臣 (右) (ポルトガル政府プレスリリースより転載)



●サントス・シルヴァ外相がコロンビアとパナマ訪問

8月6日～8日、サントス・シルヴァ外相はコロンビアを訪問した。6日、同相は、トゥルヒージョ・コロンビア外相と会談した。7日は、コロンビアにおけるポルトガル人企業家及びコミュニティ代表者と会合したほか、ドゥケ・コロンビア大統領の就任式典に出席した。8日、アンデス大学で講義を行った後、パナマへ出発し、同日、バレーラ・パナマ大統領を表敬、またアルバラード副大統領兼外務大臣と会談し、9日に在パナマ・ポルトガル大使館の開館記念式典に出席した。

●ポルトガル政府が難民救助船の難民受入を表明

8月14日、ポルトガル政府は、スペインとフランスと連結しながら、アクアリアス難民救助船の244名のうちの30名の難民を受入れる意思を表明した。

ポルトガルは7月29日にライフライン号の難民30名を受入れ、7月にイタリアに係留した難民救助船2船の50名の受入れに向けた手続きを行っている。

経済

●ポルトガル、2017年宿泊者数は約2410万人

8月3日、国立統計院 (INE) は、国内外の観光客を合わせた2017年の宿泊者数 (10ベッド以上の民泊施設を含む) が過去最高の2410万人となり、前年比12.9%増加したと発表した。

宿泊日数は6580万泊と前年比10.8%増加した。うちポルトガル人は1880万泊 (全体の28.5%; 前年比7.3%増)、外国人は4710万泊 (同

71.5%；前年比12.2%増)だった。国籍別では英(外国人の宿泊者数の20.9%；前年比2.8%増)、独(同13.8%；前年比11.3%増)、仏(同9.9%；前年比5.2%増)、スペイン(9.9%；前年比7.0%増)が上位を占めているものの、ロシア(前年比46.8%増)、ポーランド(前年比43.5%増)、中国(前年比43.3%増)、ブラジル(前年比42.3%増)、米(前年比40.1%増)からの観光客も増えている。宿泊施設全体の売上は約15億2千万ユーロと、前年比19.5%増加した。

★第2四半期失業率、6.7%に低下

8月8日、ポルトガル国立統計院(INE)は、2018年第2四半期の失業率が、2011年第1四半期以来の低水準となる6.7%(前期比1.2ポイント減；前年同期比2.1ポイント減)と発表した。

INEの統計によれば、失業者数は35万1,800人(前期比14.2%減；前年同期比23.7%減)で、このうち、若年層失業率(15~24歳)は19.4%(前期比2.5ポイント減；前年同期比3.3ポイント減)の6万9,200人。男女別失業率では、男性が6.4%、女性が7.1%であった。また、地域別失業率では、マデイラ自治州(8.3%)、アソレス自治州(8.2%)、北部地方及びリスボン首都圏(7.2%)及びアレンテージョ地方(6.9%)でポルトガル全土平均を上回り、アルガルヴェ地方及び中部地方(5.3%)で平均を下回った。

★第2四半期GDP成長率、前年同期比2.3%増

8月14日、ポルトガル国立統計院(INE)は、2018年第2四半期のGDP成長率を前年同期比2.3%増、前期比0.5%増と発表した。前年同期比では、投資が、2017年第2四半期に記録したプラスのベース効果を受け、輸送設備における総固定資本形成の減少によるマイナスの成長を示した一方で、個人消費の増加により、内需は強いプラスの寄与を記録した。外需の寄与は、前期と同じくマイナスとなった。前期比では、モノとサービスの輸出の伸びが、輸入の伸びを上回ったことにより、外需の寄与は僅かにプラ

スとなった。内需の寄与も引き続きプラスとなった。

●北京首都航空によるポルトガルー中国間の直行便の中断

8月22日、国営通信LUSAの取材で、海南航空(HNA)グループ傘下の北京首都航空が、10月15日から3月まで、ポルトガルー中国間の定期直行便を中断することが明らかになった。ポルトガルー中国間の直行便は、2017年7月26日に、杭州ー北京ーリスボンの3都市を結び、週3の運航を開始した。初年度の総搭乗者数は8万人以上に達し、平均搭乗率はローシーズンで80%、ハイシーズンで95%以上を記録した。

社会

●リスボン海洋水族館が「トラベラーズチョイス2018」の水族館部門賞を受賞

8月28日、リスボン海洋水族館は、世界最大の旅行口コミサイト・トリップアドバイザーの「トラベラーズチョイス2018」の水族館部門賞を受賞した。2015年及び2017年に次いで、3回目の受賞となる。同水族館は、2018年に20周年を迎え、開館以来、185カ国から約2300万人の総来場者数に達した。

●国際天文学連合(IAU)事務局長にラーゴ氏が就任

8月30日、ウィーンで開催された国際天文学連合(IAU)総会において、テレザ・ラーゴ氏がパリに本部のあるIAUの事務局長に就任(任期2018年8月~2021年8月)した。ラーゴ事務局長は、1988年にポルト大学においてポルトガル初の天体物理学センターを設立し、国内での天文学の教育と研究の普及に貢献したほか、ヨーロッパ南天天文台、及び欧州研究会議の委員も務めた。

(了)